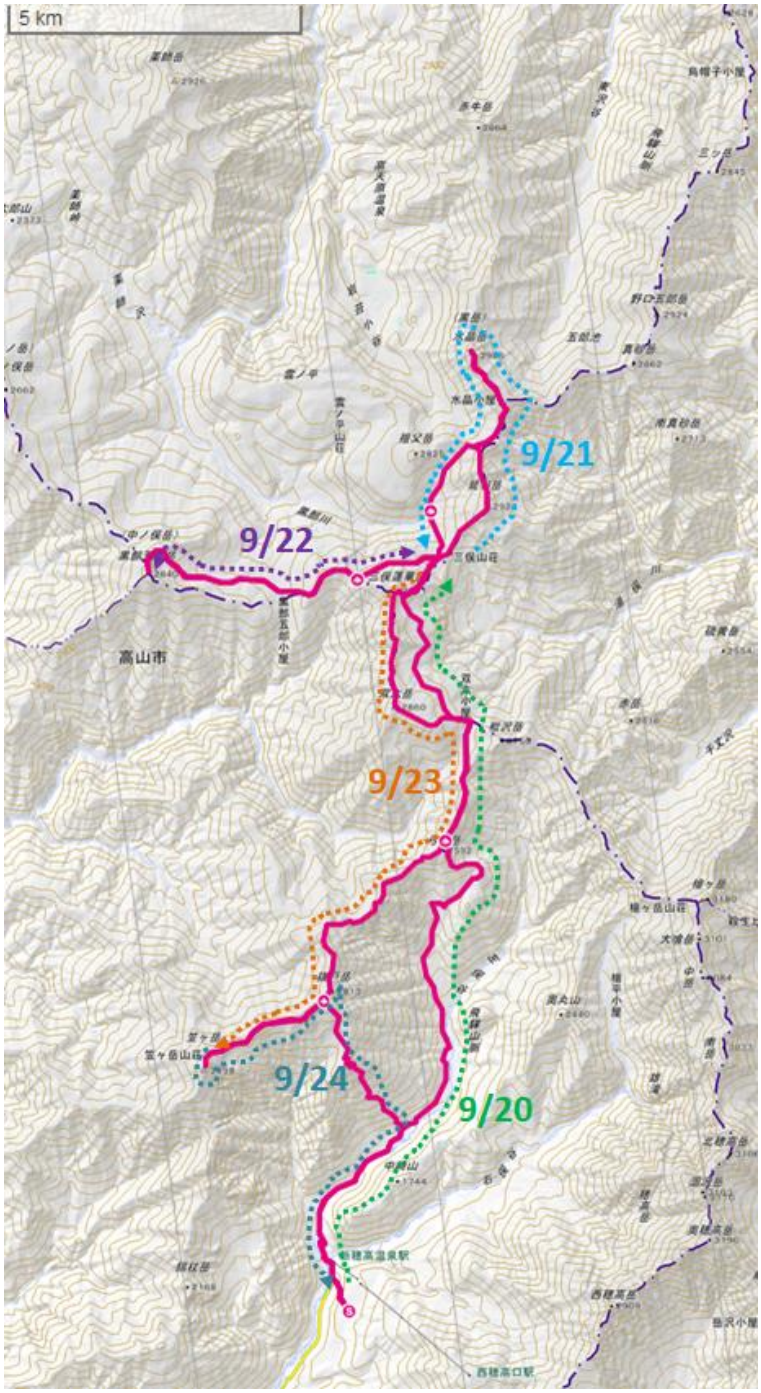
個人山行

北ア：鷲羽岳，水晶岳，黒部五郎岳，笠ヶ岳

◆日程　　2021 年 9 月 20 日（月）～24 日（金）
◆メンバー　L：OT

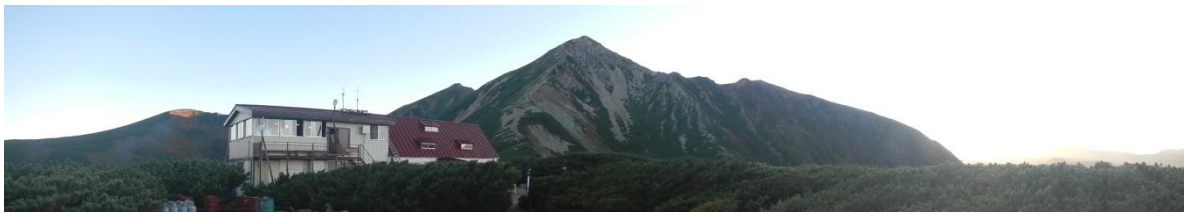


シルバーウィークは北アルプスと決めていた。昨年の同時期，劔立山縦走後に新穂高温泉まで南下する計画を立てたが，台風に阻まれ五色ヶ原から撤退を余儀なくされた。今回は，悪天候やトラブルでも対処しやすいようにベースキャンプアタックを組み入れると同時に，緊急事態宣言下を考慮し，自家用車による移動で新穂高温泉を起点とする周回ルートとした。

9 月 20 日(月)　天候：晴のち曇

前日(9/19)朝から前乗りで新穂高温泉駐車場着。登山口最寄りの駐車場は満杯で入れず，少し遠い鍋平駐車場へ。ここは山岳救助ヘリの発着場近くで，ヘリの音がしばしば響く。昼寝して過ごし，夕方，空きが出る頃を見計らって再度登山口最寄り駐車場へ。17：30 頃に地鳴りと鋭い揺れ，そして崩落音が響く。これが夕方に 2 回，夜中に 2 回位だったと思う。さほど深刻に考えず安眠。翌朝，わさび平小屋手前の林 道で崩落した岩が散乱している場所が数ヶ所。追加で降ってくることを恐れ，急ぎ乗り越えて通過。以降はルートに問題なし。陽が出ると途端に発汗。途中，冷たい湧水を補給しながらひたすら高度を上げる。初日宿泊地に設定していた双六小屋には予定時間よりも 1 時間早く到着。これなら今日中に三俣山荘に入れる。それにより設営撤収の手間が 1 回分減り，かえって楽になると判断。初日の幕営地を三俣山荘に変更。15 時着。曇りがちだが目前の鷲羽岳はうっすら見える。

CT：新穂高温泉駐車場 6:00 - わさび平 7:20-鏡平山荘 10:30/10:50 - 双六小屋 12:25/12:45-三俣山荘（幕営地）15:00（泊）



9月21日(火)　天候：晴

朝から雲が無く気持ち良い天気。目前には鷲羽岳から槍穂高の山影が連なる。荷物はテントにデポして水晶岳に足を延ばす予定だ。昨日冷たい水やコーラを飲み過ぎて少々腹具合が怪しいことを除けば申し分ない。まずは鷲羽への急登。汗が出るが，西側斜面は陽が当たらず風は吹く。お腹のためにここは脱がずに我慢。山頂に出ると360度抜群の展望が待っていた。時間を忘れて景色を眺め写真を撮りまくる。体も冷えてきたので先に進むことにする。ここは所謂裏銀座の一角。今回の目標ピークである水晶，黒部五郎，笠はもとより，北アルプスの大半の山が手に取るように見える。これが見たかった。水晶小屋に着くと，野口五郎岳に向かう裏銀座の痩せ尾根が分岐している。雲ノ平に向かう人が手前で荷物をデポして水晶岳に足を延ばす人も結構いる。なるほど，薬師の手前に平らな溶岩台地，あれが雲ノ平か。今回はピークハントが主目的なので通らないが，いずれは烏帽子岳から雲ノ平を経由して折立へ抜けるルート，または立山室堂に向かうコースも歩いてみたい。水晶岳は手前に特徴的なギザギザがある。この岩稜帯を通過すればいよいよ山頂。薬師岳や赤牛岳が目前だ。何れの山体も赤みを帯びる。去年立山から眺めそこなった黒四ダムもはっきり見える。展望好きならずっと居たい場所だ。帰りは，鷲羽を経由せず，黒部源流に沿って下りながら三俣山荘を目指す。眼前には紅葉に彩られた黒部五郎カールが見える。明日はあのピークを目指すが，天候は悪化の予報だ。山荘に戻ったら昼食ということで，名物のジビエ丼を山荘の展望食堂で頂いた。旨い。しばし他のハイカーと話し込む。裏銀座から来た人，折立から雲ノ平経由で，黒部五郎を経て薬師方面に戻ろうとする人。西鎌尾根から槍に向かう人など色々だ。地図を見れば瞭然だが，三俣山荘は幾つものルートが交わるまさに要衝。水もおいしく，幕営者も内トイレを使わせて貰える，展望食堂は居心地がよく眺め抜群というお勧めの山荘だ。山荘で明日の天気を確認。午後に崩れる予報なので，明朝は出発を早め，速攻で戻ることにした。

CT：三俣山荘 5:50 - 鷲羽岳 6:50/7:25 - 水晶小屋 8:30 - 水晶岳 9:10/9:35 - 水晶小屋 10:10/11:00-黒部源流 12：45 - 三俣山荘 13:10（泊）

9 月 22 日(水)　天候：雨

５時出発。昨晩に小雨がぱらついていたが，今はガスに覆われており，いつ降り出してもおかしくない様相。まあ，一週間も山中にいれば必ず雨に遭遇する。悪化するのは１５時頃からで，今は雷も風もないのでよしとして出発。三俣蓮華岳を巻いて黒部五郎に続く稜線を進む。ルート上には背丈の高いハイマツが水滴を全身にプレゼントしてくれる。雨よりましだが，鬱陶しい。次第に高度を下げ，鞍部の平原にかわいい形の黒部五郎小舎。曇っているが辺りは草紅葉で覆われている。ここからはカールコースと尾根コースとに分かれる。小屋番によれば，後者はハイマツの藪が掛かっておりルートファインディングが必要で，時間を要する。一般的にはカールコースを勧めるとのこと。天候悪化の前にテントに戻るためにはカールコースピストンの一択と即決して進む。と，まもなく雨が降り出した。予報よりも数時間早い悪化だ。小雨なので合羽を着れば済む範囲と判断，中止せずに進む。暫くすると汗が合羽の中で結露，いささか気持ち悪い。カール内には巨大なサイコロみたいな岩が転がり，紅葉が見られる。晴れていればさぞ素晴らしい景色だろう。稜線に出るとガスと風が吹きすさぶ。山頂は長居無用の様相で，記念撮影後さっさと退散。カールまで下がってカロリー補給，小屋脇でまた補給と，体を冷やさないように注意しながらひたすら帰途を急ぐ。三俣山荘近辺では携帯電波は入らないがこの稜線では入るのでしばし休憩がてら溜まったメールのやり取り。テントに戻ったとたんに豪雨になり，夜には雷鳴。テントでは濡れた衣類を出来るだけ乾かしておこうと，着干しなどして過ごす。雨は夜中に止んだが，暫くは近くの沢から増水による轟音が聞こえた。未明に寒くて目覚める。天候回復による放射冷却のためとは言え，まだ体が寒さに慣れていないのだろう。

CT：三俣山荘 5:00-黒部五郎小舎 6：45/7:00 - 黒部五郎岳 8:45/8:55 - 黒部五郎小舎 10:25/10:50-三俣山荘 13:00（泊）

9 月 23 日(木)　天候：晴のち曇

６時半に幕営地を出発。撤収に手間取った。今日は距離が長いので早目に進みたい。三俣蓮華岳山頂はガスに覆われ展望がない。工事現場風ヘルメットにピッケルでもハンマーでもない変わった道具を持っている人がいるので話しかけてみると地元大学の地質学研究者で，火山灰を磨いて調べるための道具だとのこと。ここから双六岳までは冷たい風の吹く稜線歩き。南はガスが掛かりがちだが，北は素晴らしい眺めだ。双六岳で，他のハイカーとつい話し込んでしまいまたタイムロス。急いで双六小屋まで下り，直ちに弓折分岐へ向かう。時々カロリー補給に立ち止まるがひたすらロスを取り戻そうと追い上げる。弓折分岐から急に人が少なくなる。前方はガスが掛かっており，やや不安に。立山室堂から南下してきたという先行者を追い越して間もなく，ルート上の足元でバタバタと走り出す小さな生き物。雷鳥だ。成鳥ではないが，

大分大きくなっており一羽で行動している。巣立ち直後なのかも。至近距離で写真を撮ってもルート上から逃げようとしない。先程の人も一緒になって撮影会。堪能後，邪魔をしないようにすり抜けて先へ進む。ちょっとした庭園の趣がある秩父平で小休止。稜線に上がると再びガスと冷たい風だが，雨が降らないのは幸いだ。抜戸岳を過ぎたところで再び雷鳥。先程と同じくらい大きめの雛だ。眺望が無い代わりに静かな雷鳥日和というのも悪くない。他のハイカーと話をしながら疲れを紛らわせるうちにテント場に到着。設営後に支払いのために笠ヶ岳山荘までさらに上がる。ここは昨年営業していなかったためか，お目当てのバッジはなんと売り切れ！！天候は翌日回復する予報なので，今日は登頂せず休むことにした。

CT：三俣山荘 6:30 - 三俣蓮華岳 7:30/7:40 - 双六岳 9:00/9:30 - 弓折岳 11:10 - 秩父平 12:45/12:55-抜戸岳 13:55-笠ヶ岳山荘（幕営地）15:10（泊）

9月24日(金)　天候：晴

起きると外は雲が無い。朝食後，テントの中は直ぐに撤収できる状態にして出発。既に空は明るくなりつつある。慌てて一気に登頂。夜明け直前のシャッターチャンスに何とか間に合った。槍穂高の大キレットから太陽が登って来た。明るくなると全方向に見事な眺望が姿を現す。彼方の山頂を他のハイカーと指摘しあいながらあっという間に時間が過ぎる。自分は笠新道を下るだけだが，鏡平を経由するロングルートを予定する人も結構いる。次々と下山して静かになったが，自分は前の二日間不良だった展望を取り戻さんとばかり，粘りに粘った。そのため，テント場に戻るといい具合にテントが乾いていた。しっかり乾かしながらゆっくりと撤収。予定を大幅に遅れての下山開始だ。前日に何も見えなかった抜戸岳に立ち寄って大展望を堪能してから笠新道を下る。杓子平までは素晴らしい紅葉の中を歩く。そのあとはひたすら樹林 帯を下る。ルートは狭いため休憩は一度だけ。気付いたら遅れをかなり取り戻しての林 道到着。入山時に林 道をふさいでいた岩は脇にどかされていた。新穂高温泉では食事を提供していないとのことで，早々に今日の泊地であるほおのき平へ移動。しかし，ここでは温泉すら入ることが出来なかった。翌日の乗鞍岳ハイクに備え，持ち込んだ食糧で空腹を満たして熟睡。

CT：幕営地 5:20 - 笠ヶ岳 5:35/6:55-幕営地 7:20/8:45 - 抜戸岳 9:55/10:15 - 杓子平 11:10/11:20-笠新道分岐 13：30 - 新穂高温泉駐車場 14:30＝（車）＝ほおのき平（泊）（翌日，乗鞍岳登頂の後，帰宅）

単独での幕営４泊の縦走は自分にとっては初の試みだった。小屋番や他のハイカーからの情報を参考にしつつも自分ですべて決断して行動するのは，自由を手にすると同時に緊張を伴う。体力的にもかなり疲労する。一方，その結果得られるものは莫大だ。実に良い経験になった。次の計画へのイメージが湧き，幅も広がったと思う。　（記：OT）